

□「六区らしさ/エンタテイメント・ストリートとしての高揚感」を創り出す「街路景観デザイン」の提案を通じて「旭ビルウォールによる地域貢献」を果していきたいと考えております。

浅草六区ブロードウェイ/興行街再生に向けた街並み景観デザイン・個性化戦略

□「六区景観デザイン/統一イメージ形成」に向けて。

六区興行街のイメージを「景観デザインの誘導」により実現させる。新旧建築物全てに対応可能な「建築外観デザインの統一」「景観付加装置・ストリートファニチャー(旗・のぼり・横断幕・懸垂幕・バナー・看板・デジタルサイネージ・街灯・照明・モニュメント・ネオンサイン・広告塔/パリのコロソ・モリス)等による付加的な景観イメージの統一」「プロジェクションマッピングの活用」等による「六区イメージ」の統一感形成を目指す。→「景観計画」「地区計画マニュアル」に反映

※コロソ・モリス colonne morris はパリの情景には欠かせない広告塔。広告塔とはいっても、劇場や映画といった芸術、スペクタクルに限られた広告掲載のみが許可されている。コロソ・モリスの歴史は19世紀まで遡る。

※プロジェクションマッピングとは、実物<リアル>と映像<バーチャル>をシンクロさせる映像手法で、その両者の融合が生み出す魅力的な世界観はいま世界中で注目を集めている。映像やコンピュータグラフィック等をスクリーンのような平面に単純投影するのではなく、建築や家具などの立体物、または凹凸のある面にプロジェクター等で投影する。その際、映像等の素材にはスクリーンとなる対象と同じ立体情報や表面情報を持たせ、投影の際にぴたりと重なり合うようにします。すると、その映像の動きや変化で、対象物が動いたり、変形したり、または自ら光を放つ様に感じさせる幻想的で、錯視的な映像表現となる。



□「六区らしさの表現」

《基本目標》：「六区興行街再生」を目指した「六区ブロードウェイ」全体の統一イメージを創出する。

—そのために

▶「国際観光都市浅草のアイデンティティ」は浅草全体が「浅草寺を中核とした江戸町」としての魅力(江戸まちテーマの建築・伝統芸能・文化・祭事等)により「国際観光都市」として世界的なオリジナリティ高い個性・魅力を生み出している。



(1)「六区の街区イメージ/浅草に於けるポジション」の認識

①興行・遊興・エンタテイメント・トランスの魅力を表現するマチ

②大正末期～昭和初期「六区最盛期」の“建築様式”が「アールデコ様式」であった。なぜ当時「アールデコ」を「六区デザインテーマ」としたのか？その理由は「時代を大きく変革する“創造への意欲・情熱”の表現」としてのデザイン様式が「アールデコ」であった。浅草六区の時代性に「アールデコ」の進取性が合致していた。



浅草六区ブロードウェイ/興行街再生に向けた街並み景観デザイン・個性化戦略

(2) 「まちの個性/歴史・伝統・記憶」の継承が重要。

—無個性のマチとしないために。

—六区ゆかりの「建築・文化」デザインテーマに由来させることにより、「デザインの意味」の必然性が生み出される。

【六区の記憶継承テーマ】

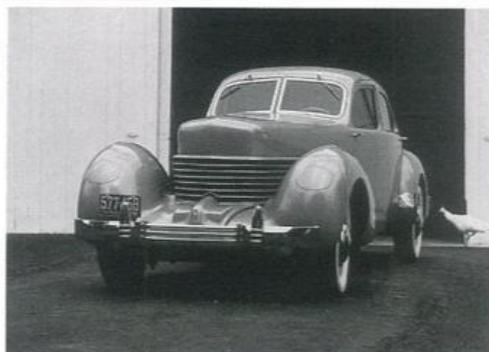
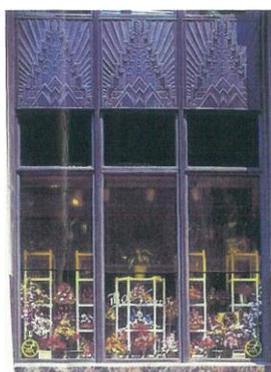
- ①「アールデコデザイン」クラシック
&モダン(別紙参照)の引喩/イメージを思考の中で操作的に取り込む。
 - ・全体の印象に生かす。
 - ・1～2階のデザイン・ディテールへの反映/街並みを感じ取る視覚範囲の統一デザイン
- ②「アールデコ・プロダクツ/サイン等」デザインの反映。



クラシック



モダン



浅草六区ブロードウェイ/興行街再生に向けた街並み景観デザイン・個性化戦略

(3) 「非日常的祝祭性(トランス)」に満ちたストリートの形成

—「トランス(TRANSE)」とは：文化人類学で“人が集団で集いお祭りの時一気にハイになる祝祭的な高揚感”をいう。人間は「トランス(非日常的祝祭性)」と「アメニティー(日常的快適性)」のバランスが必要と言われる。「トランス」は人が集い交流する「集団的な環境」から生み出される。

【トランスを生み出す“フェスティバル・ストリート”形成テーマ】

—六区の「フェスティバル性」は演劇・芸能・ミュージカル・映画・ジャズ・ストリートパフォーマンス等々のテーマで構成

〈事例〉

「ユニバーサルスタジオ/シティウォーク」(ロサンゼルス)

①—映画をテーマとしたストリート環境デザイン/気分をハイにさせる賑わい空間の仕掛け創り



②「バーボンストリート」(ニューオーリンズ)

—音楽テーマ/ジャズが通りに滲み出す。音楽・ストリップ・ショーの猥雑性が魅力の街路空間。ストリートがそのままエンタテインメント空間



●バーボンストリートのメインストリート



●ジャズライブハウスをのぞく



●キャスト・アイアンの建案とフラッグ

【トランス創出の景観デザイン】/遊び心・ウキウキ感のデザイン

①既存外壁にテーマデザイン要素を付加設置

～「大型看板(店名・劇場名・スポンサー名表出の魅力)」
「映画テーマ・3Dモデル」「デジタルサイネージ」等の設置。
～「持ち出しフラッグ」「持ち出し/店舗シンボル飾り看板」

②街路/ストリートファニチャーデザイン

～「広告塔(パリ/コロン・モリス)」「シンボル時計塔」
～「自立フラッグ」「興行旗竿ノボリ」

③「懸垂幕」「横断幕」「暖簾」等



浅草六区ブロードウェイ/興行街再生に向けた街並み景観デザイン・個性化戦略

□「事業化への取組」

(1)「補助金の導入」

- ① 「地域連携モデル商店街事業」9/10補助（別紙参照）
- ② 「その他支援事業制度」の調査・導入/「日本財団」ほか

(2)「スポンサー」「寄付」制度の導入

- ① 「景観整備事業」に対して。
- ② 「景観要素ごとの単体寄付」例：「広告塔」「シンボル時計塔」等



「時計塔」



「フラッグ」



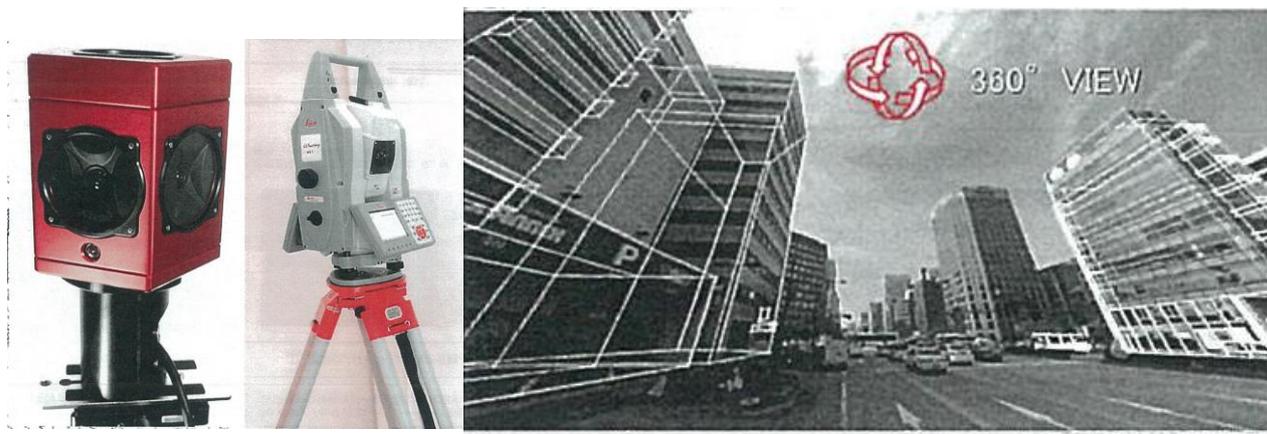
「広告塔」

□「基本データ」の作成。

六区ブロードウェイ全長にわたる「既存の街並み・景観3Dデータ」を作成し、今後の「六区らしさ/街並み環境デザイン」検証のベースを構築する

——「ユーズファクトリー/上嶋氏」は竹中工務店を辞めて独立し、現在、営団地下鉄や大手ゼネコンを相手に既存施設の写真とレーザー測量を合成することで三次元空間を作成している。六区全景を3D立体空間化に適した新しい技術である。

ホームページ <http://us-factory.jp/robot/>



□「浅草地区観光まちづくり推進協議会」の紹介

一 旭ビルウォールは浅草地区観光まちづくり推進協議会の第3部会に所属し「六区興行街の復権」「六区オープンカフェ実現」をテーマとして、その実現への取組を行っております。

●「浅草地区観光まちづくり推進協議会」の活動紹介

「浅草地区観光まちづくり推進協議会」とは

「浅草地区観光まちづくり推進協議会」は平成16年7月に「つくばエクスプレス浅草駅開業」を“浅草再生・再活性化への千載一遇の大チャンス”と捉え、このタイミングを失することなく「世界に通用する国際観光都市・浅草の魅力づくり」に向け“自ら行動し自らを変えていく官民一体となった「横断的な組織」”を創ろうとの主旨により立ち上げられました。

浅草の様々な地域の個性を生かしつつ浅草全体の魅力づくり・再活性化に繋げる「再生への知恵と行動」を一つにまとめるため、それまで地域・団体・通里会・行政等が全く個々・独自に活動していた状況を抜本的に改善する「横断的な組織」として台東区・区議会・浅草寺・浅草観光連盟・浅草商店連合会・おかみさん会・各町会等々からなる「浅草地区観光まちづくり推進協議会」が誕生しました。

国際的な観光地である浅草の魅力さをさらに高めるため、「浅草地区まちづくりマスタープラン」を策定し、これに基づくまちづくりの実現化に向け、台東区・地元関係団体等と連携したまちづくりを推進してきました。13年目に入り、その成果も目に見えて参りました。

1：「設立の趣旨」「活動の目的」

「世界に通用する国際観光都市・浅草」実現に向けた50年・100年先を見据えた浅草の未来戦略を基本とし、「浅草の魅力づくり」への課題抽出・再生への提案策定を行い「行政」「地域」と一体となった「まちづくりへの推進活動」を行うべく設立されました。

2：「協議会部会活動の概要」

協議会活動は協議会メンバー(地元有志・アドバイザー十台東区)参加の「第1～第3部会」の3部会活動を通じ、個々に「年間テーマ」を設定し、実現への方策を検討・事業化に向けた活動を実施して参りました。

平成27年度部会活動実績・28年度活動方針

H28年度の活動は「2020年オリンピック」に向けた課題も多く、各3部会のテーマを一つずつ実現していく「具体的な成果」を目指した協議会活動としていきたい。

	第1部会 「歴史・伝統を生かした潤いのまち」	第2部会 「回遊性のある美しいまち」	第3部会 「基盤整備と賑わいのまち」 ライトアップと夜の浅草復権
H27年度 活動実績	観光バスの駐車場対策検討及び提案の策定 メトロ・都営地下鉄・東武との「浅草3駅の相互動線確保・バリアフリー化」に向けた検討 震災時における観光客の避難誘導活動の周知と実施	隅田川水辺の活用及び舟運事業における日本橋・隅田地区との連携・回遊性の推進 4地区連携イベントの開催 浅草防災棧橋の観光活用案作成	浅草六区地区計画の決定後の地域における調整及び地区計画推進(地区にふさわしい建物デザインと興行街化への誘導) 六区ブロードウェイ・オープンモール社会実験の実施 ホテル増加に伴う「夜の回遊計画」の作成
H28年度 活動方針	①「東京メトロ」バリアフリー化と合わせた2020年を目標とした「浅草3駅連携・バリアフリー化実現への更なる行動」。 ②「大型観光バス/乗降場・駐車場整備」への“浅草全体を巻き込んだ整備具体化”への活動。 ◆「都営浅草線浅草駅」のバリアフリー化提案と行動 ◆大型観光バス乗降場(言問通り活用)整備と駐車場の増設への具体策 ◆「防災」について検討着手	①2020年・2020年以降の「国際観光都市・東京」への舟運ネットワーク整備に向けた「舟運連絡協議会」活動への積極参加。 ②「防災棧橋」の観光活用(社会実験)への具体的テーマの抽出と「舟運団体棧橋利用の自由化」への行動。 ◆「舟運連絡協議会」への台東区参加と5区連携による「舟運ネットワーク」の具体化(含羽田を浅草直結) ◆「東参道防災棧橋」の観光活用具体的提案策定	①六区地区計画/再開発事業の促進 ②「六区ブロードウェイ」全体の“オープンカフェ/モール化”への数年後を見据えた「社会実験(10月)」「調査・研究」の推進。 ③「観音裏活性化」への再生テーマの検討/「大規模建替の促進」「大型観光バス乗降場整備・言問通りトラフィックロード化等」の提案継続。 ◆「六区ブロードウェイ・オープンカフェ/戦略特区認定」へのアクション ◆「観音裏活性化」への「言問通り大型観光バス乗降場/トラフィックモール」の研究着手

■ 活動例

■ 六区再開発事業化支援/興行場等導入促進

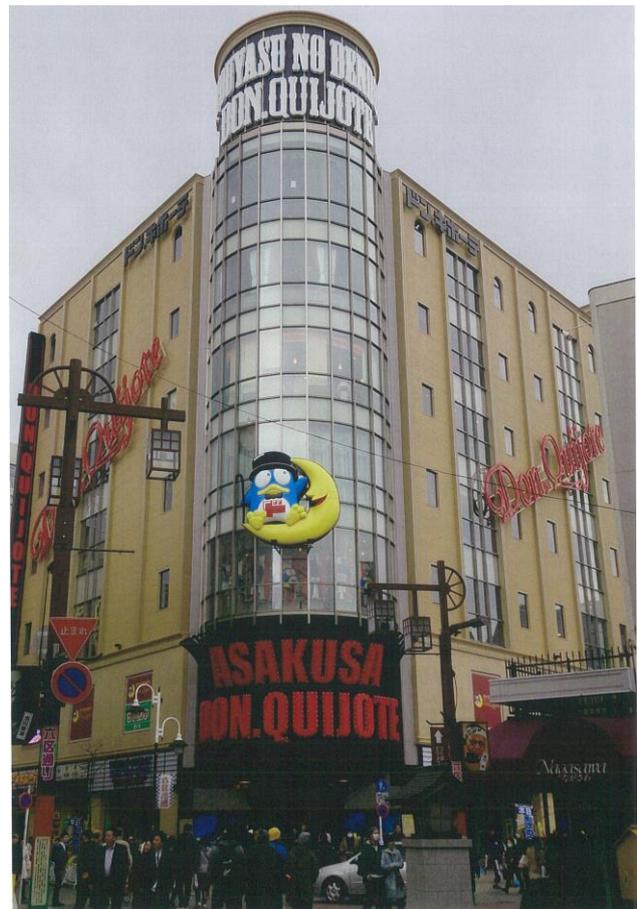
「六区地区計画」導入に伴い「六区大型地権者」が順次「地区計画制度を用いた建替え計画」を推進し始めました。「推進協議会」では、こうした計画に対して「地区計画の主旨/興行場等の設置、景観デザインの方針」等に沿うように要望・調整して来ました。先ずH25/12「旧大勝館跡地にドンキホーテ浅草店」(興行場機能：7Fアミューズカフェシアター)が、H27/3「ROX-3」(興行場機能：屋上フットサル&3Gスーパーマルチコート)、H27/12「東京楽天地/まるごとニッポン&リッチモンドホテル プレミア浅草インターナショナル」(興行場機能：3F祭りイベント広場)がオープンしました。現在「松竹 TRC 計画」(興行場機能：500席劇場)が着工に向けて動き始めています。こうした動きに刺激されて今後も大・中規模地権者による「再生事業」が連動することを期待しております。



ROX-III



まるごとニッポン



ドン・キホーテ浅草店

■ 六区オープンカフェ社会実験・国家戦略特区

浅草は「仲見世」「新仲見世」「浅草寺」「伝法院通り」等、魅力的な回遊路が形成されているが、「来街者が滞留し、ゆっくり休息できる“広場状空間”」

が全くないことが課題となっています。

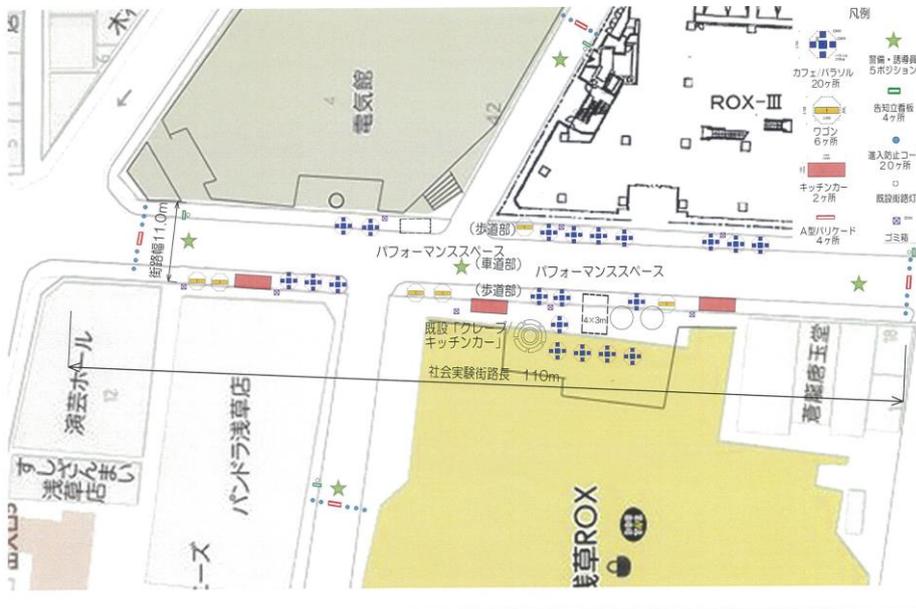
「浅草六区」はいま「興行街再生」に向けた“地区計画活用による再開発事業”が進行中で、再開発事業の順次完成に伴い今後、来街者の増加が見込まれます。そこで「六区ブロードウェイ」の道路空間を活用した「オープンカフェ/オープンモールを創設」し、“賑わいとエンターテイメントに溢れた、12m×300mの広大な滞留・休息広場”を生成することを目指しています。

同時に現況「六区ブロードウェイ/街路」には不法駐輪が溢れ“街路としての安全な通行”に支障をきたしており、こうした不法駐輪対策に対する“道路占用によるオープンカフェ”実践の有効性をも期待しております。

□「オープンカフェ社会実験」の実施時期

第1ステップ：2016年4月の9日間/イベント事業として実践

第2ステップ：2016年9・10月(金土日)の15日間/都市戦略特区構想の一環として実践。



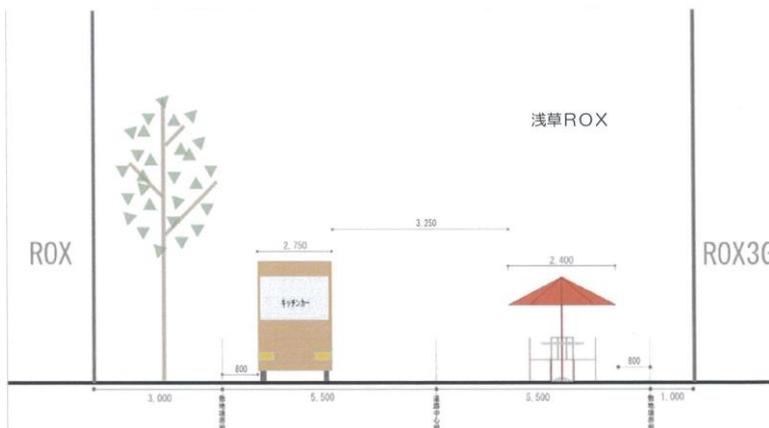
浅草六区ブロードウェイ/道路を活用したオープンカフェ社会実験
オープンカフェ配置図 (S-1/300)



六区現況



オープンカフェ告知看板



オープンカフェ断面図



オープンカフェ/パラソル



オープンカフェの賑わい

